Zoom Up Tome 2024 Special

全国の舞台で活躍した本市の
小中高生たちの挑戦に迫る

第55回日本少年野球選手権大会優勝

左から
佐々木 翼、三浦 貫(佐沼中３年)、**鈴木 蒼翔**(南方中３年)

「優勝したいとは思っていましたが、本当に優勝できるとは思いませんでした。チームとして初の全国優勝なので本当にうれしい」と３人は口をそろえた。

中学硬式野球のボーイズリーグ全国大会「第55回日本少年野球選手権大会」の決勝戦は８月７日、大阪シティ金庫スタジアム（大阪府大阪市）で開催され、大崎市を中心に活動している宮城仙北ボーイズが全国優勝を成し遂げた。

佐々木選手、三浦選手、鈴木選手の３人は、小学校低学年の頃から市内のスポーツ少年団に所属。野球の技術を磨き、さらに高いレベルで挑戦してみたいと、同チームへの入団を決意した。県内外から集まった仲間たちと切磋琢磨し、厳しい練習を乗り越えて７月に開催された東北大会で優勝。２年連続となる全国大会への切符をつかんだ。

全国大会初戦、三浦選手が登板するなどして快勝すると、2回戦、３回戦と順調に勝ち進んだ。準々決勝では、序盤リードするも中盤に逆転を許し、２点負けている状況で迎えた最終回。鈴木選手が代打で出場してライト前ヒットで希望をつなぐと、次の打者のホームランで同点に追いつき、延長戦の末に逆転で接戦を制した。続く準決勝では、佐々木選手のタイムリーヒットなどで得点を重ね、これまで到達することができなかった決勝の舞台へと駒を進めた。決勝戦では愛知名港ボーイズ（愛知県）相手に、持ち味のつなぐ打線で着実に加点し、最後までリードを許すことなく７対３で勝利。宮城県はもとより、東北勢初となるボーイズリーグ全国優勝の栄冠に輝いた。

３人はそれぞれ違う高校に進学予定だが、目標は共に甲子園出場。ライバルとしての再会を夏の空に誓った。

第58回高野山競書大会

最高賞・佐藤 愛美璃(東和中３年)　**特別賞・心璃愛**(２年)

「最初は自分でも信じられませんでしたが、ずっと目標にしていた日本一になることができてよかったです。書道の先生や家族、クラスメートのみんなが喜んでくれたことが、すごくうれしかった」と愛美璃さんは白い歯を見せた。

本年度開催された、書道の第58回高野山競書大会において、愛美璃さんが最高賞となる弘法大師賞を受賞した。大会は、国内最大規模の出展数を誇り、今回は全国から10万9884点の応募のうち、学生の部への応募が約４万点。６月に開催された選考会で、最高賞に当たる弘法大師賞に選ばれた。妹の心璃愛さんも特別賞を受賞。見事、姉妹で上位入賞を果たした。

佐藤姉妹が書道と出会ったのは８年前。愛美璃さんの小学校入学を機に書道教室に通い始めた。２年が経過した頃、県のコンクールで二人とも２位だったのが悔しく、当初週１回だった教室での練習は、いつしか週５回に。思うようにいかず悔し涙を流す日もあったが、努力を惜しまずに練習し、県のコンクールで二人そろって最高賞を受賞するほどの技術を身に付けた。

「今まではお手本通り書くことだけを考えていましたが、日本一になるためには個性を表現することが大切だと思いました。強弱や字の持つ意味を考えるようにしたら、楽しみながら書くことができた」と愛美璃さん。妹の心璃愛さんは「目標の日本一には届きませんでしたが、初めて上位の賞を受賞することができたのでうれしかったです。自分の持つイメージをもっと表現できるように頑張ります」と前を向いた。書道界の新星として全国の舞台で輝きを見せた佐藤姉妹の夢は、二人そろっての日本一。筆を握る手に思いを込め、さらなる高みを目指して筆を運ぶ。